

◆2012年前期 受講生募集◆

CITY COLLEGE 2012

シティカレッジ

シティカレッジは、県内の大学や短期大学、教育ネットワーク中国と広島市、財団法人広島市未来都市創造財団が連携して、大学などが持つ優れた研究・教育機能を市民生活に生かすことを目的に、社会人の皆様に学習機会を提供しています。日常の暮らしに生涯学習の時間を取り入れてみてはいかがでしょうか。(シティカレッジは、教育ネットワーク中国、広島県教育委員会、広島市、財団法人広島市未来都市創造財団及び加盟大学で実施する「ひろしまカレッジ」としても一部実施しています。)

◆主催◆

教育ネットワーク中国、広島市、財団法人広島市未来都市創造財団、県立広島大学、広島女学院大学、広島文化学園大学、安田女子大学、広島国際学院大学、日本赤十字広島看護大学、比治山大学(大学は開講日順)

◆会場◆

広島市まちづくり市民交流プラザ(広島市中区袋町6番36号)

申込・問合せ先は裏面を
会場・案内地図は内面をご覧ください。

県立広島大学

ひろしまカレッジ
受講証

申込開始日	4/16	定員	50名	対象	社会人
受講料	無料	会場	研修室A、C	時間	10:00~11:30

東アジアの文化交流

ひと(人)やもの(物)は動くことによって影響し合います。発信地の役割(機能)と経由地(道・交差点)、受信地の環境(自然環境・社会環境)によって、通行の方法や情報の伝達量も異なります。特に時代によって、その役割や立場を変えます。今回は、中国・韓国朝鮮・日本という東アジア地域における文化交流史を探訪します。

1 5月26日(土) <10:00~11:30> 教授 丸山浩明

研修室C

■ブックロードから見た中国と日本

奈良平安の時代より、書物は中国より輸入されて日本の文化を支えてきました。江戸時代まで続く書物往來の歴史と特徴を文化交流史として考えます。

2 6月2日(土) <10:00~11:30> 講師 鄭 銀志

研修室C

■朝鮮通信使と広島

近世日本と朝鮮の間には公式的な外交関係があり、そのとき朝鮮の李王朝から日本の徳川幕府へ派遣された外交使節団を「朝鮮通信使」と呼びます。この朝鮮通信使は、正徳元(1711)年来日した折、福山市鞆浦の景色を「日東第一形勝」と称賛し、広島的美しさに魅了されました。本講座では広島における日朝の文化交流を、服飾という視点から考えます。

3 6月9日(土) <10:00~11:30> 教授 侯 仁鋒

研修室C

■漢字の力

漢字は、長く広い時空を超えて、昔とつながり、中日両国の共通財産として、文化的な絆となっています。この漢字一文字を以って、一年の世相を総括することができるぐらい、大きな力を持っています。このような力は他にもたくさんあります。多彩な事例をあげながら、その力、そして、その大切さを理解していただきます。

4 6月16日(土) <10:00~11:30> 教授 侯 仁鋒

研修室A

■飲食に関する日中異文化

中国語には「民以食为天(民は食を以て天と為す)」という言い方がある通りに、食事に対する感じ方、マナー、食材、作り方などを日本のそれと比較しながらその違いを、面白い例をあげて紹介します。また、その底流にある「生」志向と「加熱」志向でそれぞれ追求する趣と価値観の違いを実感していただきます。

5 6月23日(土) <10:00~11:30> 教授 丸山浩明

研修室A

■日本のなかのアジア

中華料理に韓国キムチ、私たちの身の回りには多くの外来文化が根付いています。その日本化の現象から、文化の差異を茶や酒を題材に用いて発信と受信の面から考えます。

広島女学院大学 ひろしまカレッジ 受講証

申込開始日	5/1	定員	50名	対象	社会人、大学生
受講料	無料	会場	研修室C	時間	18:00~19:30

食と健康を考える

ヒトの健康に関わる“食”は多方面から考えることが大切です。食と関係の深い微生物という視点、ヒトが口にする食品の働きという視点、よりよい食生活を送るための食育という視点、そして、生活習慣病や食物アレルギーのように食事によって引き起こされる様々な影響という視点などです。今回の講座では、これらの多様な分野から、それぞれ研究内容をもとに広域的に“食”を考えてみます。

1 6月7日(木) <18:00~19:30> 教授 村上和保

■新聞記事で学ぶ。私たちと微生物

私たちが毎日読む新聞記事。そこには実にたくさんの微生物に関する情報が書かれています。私たちの食や健康、生活に関連する身近な新聞記事をいくつか取り上げ、これらを題材に科学的な視点を交えつつ人間と微生物について考えてみたいと思います。

2 6月14日(木) <18:00~19:30> 教授 三浦芳助

■大豆加工食品と健康

豆腐、味噌、醤油、納豆などが国の伝統的な大豆加工食品は、長い年月にわたり日本型食文化の中心的な役割を果たしてきました。今回は、まず、大豆に含まれる様々な“生体調節機能”成分について説明した後、大豆加工食品を健康との関連で考えてみましょう。

3 6月21日(木) <18:00~19:30> 准教授 渡部佳美

■現代の食生活の課題からみる食育の果たすべき役割

社会の変化に伴い、朝食の欠食、肥満の増加、孤食等、食生活にも様々な影響が見られます。また、食料自給率の低下、食の安全性の崩壊、食に関する情報の氾濫等食を取り巻く課題はさらに増えつつあります。健康に対する意識を高め、生涯を通じた健やかな体と豊かな心の育成を図るために、今求められている食育について考えていきましょう。

4 6月28日(木) <18:00~19:30> 講師 野村希代子

■生活習慣病と食生活

食事や運動などの生活習慣は、多くの疾病の発症や進行と深く関わることが明らかになっています。「生活習慣病」という用語は、生活習慣の改善を中心とした健康増進・発症予防を推進するために導入されました。生活習慣病予防のための食生活について考えていきましょう。

5 7月5日(木) <18:00~19:30> 講師 妻木陽子

■食べ物のアレルギー

食物アレルギーは、身近にある食べ物によって引き起こされます。なぜ食べ物でアレルギーが起こるのでしょうか。子どもに多いのはなぜでしょうか。アレルギーが起こるしくみを知り、何に気をつけて、どう対応していくべきか、最近の知見を交えて考えたいと思います。

広島文化学園大学 ひろしまカレッジ 受講証

申込開始日	5/1	定員	50名	対象	社会人、大学生、高校生
受講料	無料	会場	研修室A、C	時間	13:00~16:10

グローバル化の進展と日本の社会・経済のゆくえ

ヨーロッパの財政不安に端的に見だしうるように、グローバル化はすさまじい勢いで進展しており、日本の社会や経済に大きな影響を及ぼしている。現在、ギリシャの財政危機はEU内で伝染・拡散する傾向を示し、日本もまた経済停滞から脱し得ない状態にある。本講座では、こうしたグローバル化の進展が日本の社会や経済に及ぼす影響について様々な分野から展望する。

1 6月9日(土) <13:00~16:10> 教授 真嶋正巳

■グローバル化と日本の課題 (研修室A)

現在グローバル化はすさまじい勢いで進展しており、日本の社会や経済もまた大きく変化せざるを得ない状況にあります。本講座では、グローバル化の議論を整理した上で現在の日本が抱える課題について考えてみたいと思います。

2 6月9日(土) <13:00~16:10> 教授 権 俣基

■ビジネスのグローバル化 (研修室A)

近年、国際ビジネスの中心は、従来のモノの取引から、文化商品や著作権、特許等に関連したサービスや無形の商品へ変わりつつあります。また、情報化の進展により、このような経済のソフト化とサービス化は更に加速しています。今回は、国際観光やアジア文化関連ビジネスを取り上げ、未来のグローバル化したビジネスモデルや、その傾向について考えてみます。

3 7月7日(土) <13:00~16:10> 教授 大槻智彦

■グローバル化と日本経済 (研修室C)

少子高齢化が進み、内需が減少している日本において、現在の生活水準を維持していくためには、GDPではなく海外からのリターンを含むGNP(あるいはGNI)で考える必要があります。しかし海外直接投資は産業の空洞化を招き、それは雇用の空洞化にも繋がっています。グローバル化と日本経済について多面的に考えてみたいと思います。

4 7月7日(土) <13:00~16:10> 教授 何 路宗

■グローバル化と中国経済 (研修室C)

ヨーロッパの財政不安の煽りを受け9%台となりましたが、これまで中国はほぼ2桁台の経済成長を続け、国内総生産(GDP)も日本を抜いて米国に次いで世界第2位となるに至りました。日本と中国との経済関係は今後ますます密になっていくと予想されており、中国の発展と今後の課題について話したいと思います。

5 7月14日(土) <13:00~16:10> 教授 磯田朋子
教授 香月保彦

■日中の若者の結婚観と婚活事情 (研修室C)

日本でも、中国でも、若者がなかなか結婚せず、晩婚化・未婚化が進んでいます。日本の大学と、中国の大学で、結婚観について学生調査を実施しました。その結果を紹介しながら、昨今の若者の結婚観、日中の若者の結婚観の違いについてお話しします。中国には、ちょっと変わった婚活も。そんな事例もご紹介しましょう。

6 7月14日(土) <13:00~16:10> 教授 今田寛典

■グローバル化と交通 (研修室C)

いまや、簡単に国境を越えて人と物が移動できる社会です。広島の人にはビジネスで観光で広島空港からアジアの都市を訪れた、アジアの人たちが広島にやってきます。安くて迅速である交通を誰もが願っていることであり、世界では格安航空会社が多くの利用客を得ています。本講座では、交通のグローバル化について紹介します。

◆後期講座のお知らせ(予告)◆

大学名	講座名	回数
鈴峯女子短期大学	広島発女性学	3
広島経済大学	スポーツビジネス最前線	5
広島工業大学	電気の未来	4
広島国際大学	健やかにそして明るく生活するために	4
広島市立大学	芸術に関する講座	4
広島大学	歴史のなかの瀬戸の海~瀬戸内海を旅した人びと	6
広島文教女子大学	日常生活に生かす心理学	4

*講座名・内容は変更となる場合があります。後期パンフレットは8月中旬に発行予定です。



(50音順)

安田女子大学

ひろしまカレッジ
受講証

申込開始日	5/1	定員	50名	対象	社会人、大学生、高校生
受講料	無料	会場	研修室C	時間	13:00~14:30

近世中国書道史点描

今回は宋以降に活躍した書人を取り上げます。中国史の時代的特色では、宋代よりのち、生産様式の多様化にともない社会の階層化が進み、ひいては従来見られなかったような人物達が登場します。彼らの生きた時代の点描を試み、個性的な人物像、さらにその書法理論の紹介を文献を基礎に講述します。

1 6月9日(土) <13:00~14:30> 教授 萩 信雄

■蘇東坡とその時代

宋の四大家の筆頭に置かれる蘇東坡は詩文書画のいずれにも才能を発揮した人でした。日中両国に於て大変人気のある文人といえるでしょう。その人となり、芸術をお話します。

2 6月16日(土) <13:00~14:30> 教授 萩 信雄

■奇行の人米芾

米芾は書の方面では四大家の中でもとりわけ高い技術をもち、また画の分野では米法山水をみだした書画の天才でした。実際は奇行の多い当時の有名人で、そのエピソードを中心に紹介します。

3 6月23日(土) <13:00~14:30> 教授 萩 信雄

■元の天才趙孟頫

趙孟頫は宋の宗室の出自であるにもかかわらず、元に仕えた人でした。立派な人柄でありましたが、その進退によって不当に評価されています。その古典に立脚した芸術観を中心に紹介します。

4 6月30日(土) <13:00~14:30> 教授 萩 信雄

■明末清初の書人群像

明末清初は中国史上でも稀に見る動乱の時代で、幾多の魅力ある人物が、明清革命の中で命を落としました。その時代に活躍した全く出処進退の異なった書家王鐸・傅山らをご紹介します。

広島国際学院大学

ひろしまカレッジ
受講証

申込開始日	5/15	定員	30名	対象	社会人、大学生、高校生
受講料	無料	会場	研修室C	時間	10:30~12:00

地域活性化と協働・共生 —地域を考えるワークショップ—

地域の活性化に取り組むケース・スタディとして袋町という地域社会をモデルに、地元(うらぶくる商店街振興組合)と応援団(大学)と利用者(講座受講者)が、袋町の関係者(ステイク・ホルダー)として対等な立場で、地域を学び、新しい何かを発見し、地域社会のあり方を考えます。参加者がソーシャル・キャピタルやソーシャル・ネットワークを手がかりに協働し、多様な文化や世代・民族が共生できる「まち」の未来を考えましょう。

1 6月16日(土) <10:30~12:00> 准教授 谷口重徳

■地域を知り学ぶ — レクチャー —

地域を考えるケース・スタディとして、うらぶくる商店街振興組合の方から、本通りに併行する2本のうらぶくる商店街を中心に、地域の歴史や課題や展望について話題提供していただきます。

2 6月23日(土) <10:30~12:00> 教授 大塚厚二

■地域を歩き見る

うらぶくる商店街を歩きます。デジカメなどICT機器を使用してのまちあるき(タウン・ウォッチング、ウィンドウ・ショッピングなど)で、様々な情報を収集します。収集した情報は次回のために編集します。

フィールドワーク

3 6月30日(土) <10:30~12:00> 准教授 池本良教

■地域の現状を共有する — データ・マッピング —

うらぶくる商店街のまちあるきで得られた写真や情報を、KJ法の手法で地図上に整理し、情報を交換・共有し、手づくりマップを作成します。さらにこれらの情報やマップを元に、インターネットによるネットワーク上で情報を整理・共有する方法についても解説します。

4 7月7日(土) <10:30~12:00> 教授 伏見清香
准教授 池本良教

■地域の現状と課題を考える — ブレーン・ストーミング —

うらぶくる商店街のまちあるきで得られた写真や情報を元に、手づくりのマップやICTを利用したネットワーク上のマップを利用しながら、参加者全員で自由な意見・情報交換をし、現状や課題を整理します。

5 7月14日(土) <10:30~12:00> 教授 大塚厚二
教授 伏見清香
准教授 池本良教
准教授 谷口重徳

■地域の未来を考える — パネル・ディスカッション —

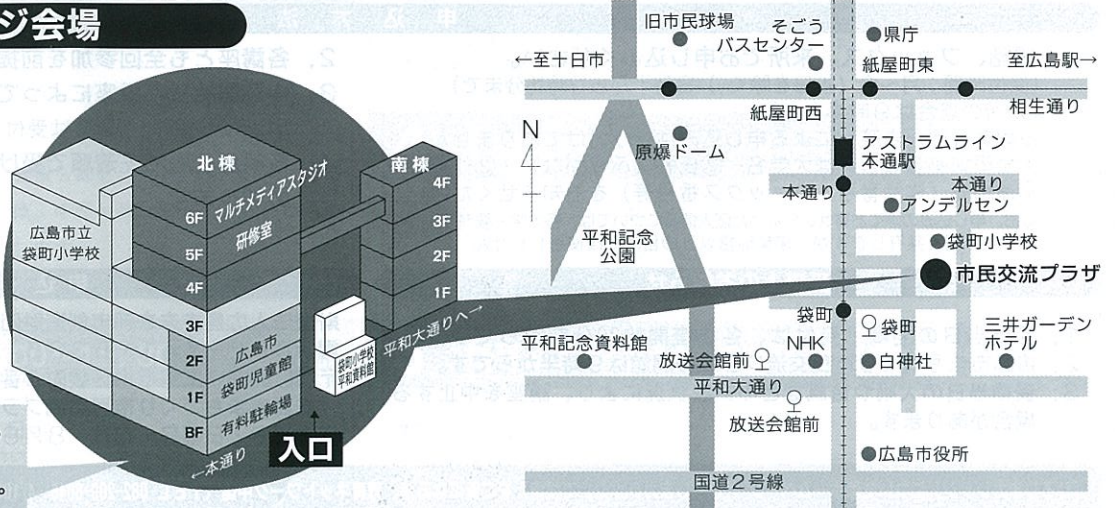
これまでの成果をまとめたうえでいくつかのテーマをたて、地元(うらぶくる)と応援団(研究者)と利用者(受講者)による討議で、地域の魅力や問題・課題、これからの方向などについて検討します。

シティカレッジ会場

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
※自転車・バイクの方は、地下に公共駐輪場(有料)がございます。

- 【電車】袋町電停から徒歩約3分
- 【バス】袋町バス停から徒歩約3分
- 【アストラムライン】本通駅から徒歩約6分

北棟1階エレベーターをご利用ください。
研修室は北棟5階、マルチメディアスタジオは北棟6階です。



日本赤十字広島看護大学 ひろしまカレッジ 受講証

申込開始日	5/15	定員	50名	対象	社会人、大学生
受講料	無料	会場	研修室C	時間	18:00~19:30

大規模災害に備えよう！—あなたにできることは何か？—

東日本大震災は、災害に対して備えることがいかに重要であるかということを私たちに教えてくれました。本学は、救援看護師の養成のために設立した赤十字の看護教育機関ですので、災害時の看護の役割はもちろんです。災害時における社会の影響や人々の反応とともに起こりやすい病気や特に支援優先度の高い対象（高齢者・小児・妊産褥婦・障害や病気を持つ人等）について、これまでの災害の経験を踏まえて分かりやすく講義します。今だからこそ、災害に備えた準備について、一緒に見つめ直し、行動化してみませんか？

1 6月22日(金) <18:00~19:30> 助教 新沼 剛

■過去の災害から学ぼう！災害をもたらす社会への影響
過去の災害（主に東日本大震災、阪神淡路大震災）の事例を通し、3つの視点（国、自治体、コミュニティ）から災害による社会的影響を考え、それに対して各レベルでどのような対策が講じられてきたのかを学んでいきます。

2 6月29日(金) <18:00~19:30> 講師 村田美和

■災害時に起こりやすい病気やけがは何だろうか？
災害時に病気やけがを起しやすくなる人、護るべき人々を考え、護るためにはどうすればよいのか。これまで起きた災害から、災害時要援護者と呼ばれる人々への看護のあり方や役割について学んでいきます。

3 7月6日(金) <18:00~19:30> 准教授 村田由香

■あなたにもできる応急手当—身近な物を活用して—
あなたは家族がけがをしたときに何ができますか。災害が発生した時に、身近にある物を活用する、とっさのときに役に立つ傷の手当の仕方等について学び、技を習得します。

4 7月13日(金) <18:00~19:30> 准教授 渡邊智恵

■大規模災害に備えた避難対応について考えよう！
あなたは、避難所がどこにあるのか、どうやって行くのか、何を準備しておくのか等、いざという時にどれだけ備えていますか。今だからこそ、大規模災害に備えた避難対応について一緒に考えてみましょう。これまでの避難所生活の実例をもとにして学んでいきます。

比治山大学 ひろしまカレッジ 受講証

申込開始日	5/15	定員	100名	対象	社会人、大学生、高校生
受講料	無料	会場	マルチメディアスタジオ	時間	13:30~15:00

広島現代詩を展望する

近代詩の誕生から現代詩まで、詩はどのように歩んできたのだろうか。歴史を貫く詩の原型はあるのだろうか。昭和のはじめ、萩原朔太郎、西脇順三郎、小林秀雄といった人たちが今日にまで通底するいくつかの基本的な視座を提出しました。それぞれが外界（西洋）からの刺激を自分なりに解釈することによって作り上げています。詩を語ることがある意味で世界を語ることに等しい時代もありました。これまで広島では、明治、大正、昭和、そして平成とつづく詩の歴史を通史として語られたことがありません。そこで数年にわたる長期計画で、近代詩史を学んでいただきたいそのようなねがいをこめて、この講座を開きます。

1 6月23日(土) <13:30~15:00> 広島県詩人協会会長 河野勝重

■詩が歩んできた道
明治15年(1822)出版の「新体詩抄」にはじまり、藤村の「若菜集」(1897)、自由詩の発生と進展、朔太郎の「月に吠える」(1917)、「詩と詩論」創刊(1928)を経て戦後に至る詩の歩みの中に、広島をどのように位置づけるか、という今回からはじまるこの講座のテーマの全貌を説明すると共に、自身の詩の歩みを語ります。

2 6月30日(土) <13:30~15:00> 元中四国詩人協会会長 御庄博美

■戦争と、占領と、詩と。
1949年、峠三吉らとの出会い、1952年の「列島」創刊から60年安保で権美智子の死因解明への協力、被爆者医療への取り組み、イラク劣化ウラン被害者などへの発言、福島原発の現在に至るまで、医師という立場から、常に一貫して反戦、反核を主張してきた半生を語ります。

3 7月7日(土) <13:30~15:00> 詩誌「蘭」代表 高垣憲正

■自作を語る(1)
思想も感動もそれ自身が詩なのではない。詩は言葉で構築された「斬新で魅力的な仮想空間」に宿る。そう考えて、メッセージの直接表現を避け、(事)の叙述よりも(物)に託した散文詩を書いてきました。できるだけ明晰な日本語を心がけています。

4 7月14日(土) <13:30~15:00> 日本文芸協会会員 松尾静明

■自作を語る(2)
一篇の詩の背後には、確かに作者の美学があるのですが、それを語るのは自画自賛のおそれがあります。ですからむしろ、他者が私の詩をどのように批評しているのかを調べ、それを語ることを通して自作の内質と、現代詩の一手法を話させていただきます。

5 7月28日(土) <13:30~15:00> 詩誌「火皿」代表 福谷昭二

■戦後占領期以後の広島現代詩
戦後詩の成立にかかわる見解、「荒地」と「列島」という定説への提起と広島市文化協会文芸部の企画展(占領期広島の文芸)に係わった感想などを提起。占領期後の広島現代詩について、昭和26年(1951)ころから同30年代に創刊され、その後長く継続した詩誌と詩人、話題的な詩誌について検討します。

申込方法

1. 電話、ファックス、来所でお申し込みください。
(受付時間：月～金(祝日を除く。)8時半から17時15分まで)
(来所の場合は9時半から)
※郵送(はがき等)による申し込みは受け付けておりません。
①希望講座名もしくは大学名 ②氏名(ふりがな) ③住所
④連絡先(電話番号・ファックス番号等)をお知らせください。
なお、申し込みの際にお寄せいただいた個人情報については、各大学・教育ネットワーク中国と共有しますが、事業運営以外の目的には使用しません。
2. 各講座とも全回参加を前提に受け付けております。
3. 申込開始日が講座によって異なりますので、ご確認ください。(申込開始日までは受付できません。)
4. 各講座ともに先着順で受け付けます。定員になり次第、締め切ります。

受講上のお知らせ

1. 受講当日の開場・受付は、各講座開始30分前からです。
2. 広島市まちづくり市民交流プラザの開館は9時半からです。
3. 受講当日の大雨や台風などの気象状況により、講座を中止する場合があります。

申込・問合せ

財団法人広島市未来都市創造財団ひと・まちネットワーク部管理課
電話082-541-5335 FAX082-541-5611
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号
(広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階)
※土曜日・日曜日・祝日・8月6日・年末年始は閉所しています。